

## 特別展「岩石」－コロナ禍における開催と自己評価－

宇佐美 賢<sup>1)</sup>

Special Exhibition "The Rock"

- Holding and self-evaluation in a pandemic due to new coronavirus infection (COVID-19) -

Ken USAMI<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

令和2年度沖縄県立博物館・美術館 博物館特別展「岩石」～石ころから見える地球のダイナミズム～を9月8日～11月15日に開催した。令和2年は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による世界的パンデミックによって、様々な社会活動が制限された年であった。当館の博物館活動も制限され3月から8月までの半年間、国の緊急事態宣言発令や、県や館内の感染予防ガイドラインにしたがって、2度にわたって休館し、夏の展示の中止や、開館しても講演会等のイベントの中止を余儀なくされた。本稿をまとめている令和3年1月現在においては第3波の真っ只中にあり、当館のふれあい体験室は閉室、ボランティア活動も半年以上も休止中である。特別展「岩石」の開会も危ぶまれたが、コロナウイルス第2波が収束し県の緊急事態宣言が開幕直前の9月初旬に解除されたため、奇跡的に開館し予定通りに開会した。その後、会期終了まで無事終わることができた。本稿では、過去に例のないコロナ禍における特別展の記録と課題、展示の自己評価についてまとめる。

### 2. 展示の主旨・目的 対象と概要

本展覧会では、沖縄の島々を形作る「岩石」「鉱物」にスポットを当て、それらの裏に隠れた島々の成り立ちやそれを作り出した地球の活動との関係等を明らかにし島々の新たな魅力を紹介する。さらに古の時代から現代に至るまでの、我々人類や沖縄と石との関わりや、未来に向けて大地から発せられる声に

ついても発信する。本展覧会を機会に、「岩石」「鉱物」に触れ、興味関心を深めていただくとともに、様々な「岩石」「鉱物」の標本と、人類が「岩石」「鉱物」から作り出したものを通して、沖縄の自然環境や島々の成り立ち、歴史と文化、人と自然との関わりを理解する機会をつくる。なお当館での岩石に特化した展覧会は、旧館時代から含めて初めてである。以上の主旨と背景のもと、特に子ども達や児童・生徒の岩石鉱物への興味関心を高め、自然と人間との関わりについて考える機会とすることを目指し県内外の多くの地学関係者の協力をあおぎ企画・開催した。展示内容や関連催事の詳細については、年報や当館ホームページの岩石展ページ、学芸員コラムへ掲載したのでご覧いただきたい。

### 3. コロナ禍における開催

#### (1) 開催決定にあたって

国や県の緊急事態宣言や県、当館独自の感染拡大予防のガイドラインにしたがって、開催を決定することとした。しかし、過去に例のない世界的パンデミックにより先行き不透明で社会的に混乱している中、果たして本当に開催していいものかと心から悩み、4月～5月は何かと右往左往した。しかし、このような時だからこそ、社会を元気づけるためにも文化活動を発信すべきという考え方のもと、開館時には十分な安全対策を行ったうえで、県主催の展覧会は実施するという館の方針が決定し、予定の開幕日まで準備をしながら、緊急事態が解除されるのを待つこととした。

<sup>1)</sup> 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa, 900-0006 Japan

## (2) 感染対策

感染対策実施にあたっては、施設管理担当や展示監視員、清掃員等の職員に協力を仰いだ。館入口にはサーマルカメラを設置した。また館と展示室入口には消毒用アルコールを設置し、チケットもぎり担当に来場者へ入場前の消毒の呼びかけを依頼した。また入場者数をカウントし観覧者が密にならないよう常に配慮した。開館前の日々の清掃時には、清掃員による展示ケースのアルコールによる消毒を行った。開館中は必要に応じて展示監視員に展示ケースや来場者への消毒とソーシャルディスタンスの呼びかけを依頼した。展示担当として行ったコロナ対策は、開会式を行わず、マスコミ向け内覧会としたことから始めた。続いてハンズオン展示の撤去またはハンズオン不可の表示を行った。展示解説会、体験教室等のワークショップ、野外観察会等の関連催事においても申込数を通常時よりも少数に制限、室内の関連催事では室内が常に密にならないよう配慮した。また特に離島における催事ではさらに参加者へ申込時から体調管理と厚生労働省の新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）利用の呼びかけを行い、開催当日にも健康状況を確認した。

## (3) 展示会の告知と発信、広報

令和2年度前半は、2度、休館したこともあり、休館時の展示発信や在宅での観覧等、新しい取り組みを考えるきっかけとなった。当館では、中止となった夏の展覧会の代替として開催した博物館コレクション展の展示解説動画のYouTube配信がそのはじまりであった。そのコレクション展もコロナ第2波に伴う緊急事態宣言によって、2週間の会期を残して途中閉会となった。その後続く特別展「岩石」も予定通り開会できるのか、休館により予定会期が短くなるのではないかなど、当初、常に懸念していた。そのため展覧会の開催告知を強化し館内外でアピールするため、広報や学芸担当は、最も伝えたいターゲットを小中学生をはじめとする学生に絞り、開会前から通常時以上に館内外において統一感のあるデザインにするという方針の下、様々な準備をした。

展覧会の顔となるチラシは、「岩石」というシンプルなメインタイトルに対して、シンプル且つイン



図1. チラシ・ポスター

パクトのあるデザインとキャッチコピーを提案してくれた。さらに駐車場中央通路上の通常、博物館と美術館の旗を掲げている部分には、岩石展と美術館で開催中の稲嶺展の旗を掲げた。エントランスの自動ドアにも初めて展示会のイメージシートを貼り付け来館者へアピールした。さらにエントランスホールの大きな2本の柱には、展示内容と流れを想像させる巨大なサインを貼り付けた。開会後は各章の展示概要の解説動画と展示会広告を制作、YouTubeにて広告とともに配信し同時に展示室内にも解説動画を配置した。マスコミへの広報依頼は通常時と同様に行ったが、夏から秋にかけて多数のイベントが中止になったことで多数の県内マスコミに取り上げていただいた。

## (4) コロナ禍における課題

コロナ禍の博物館において、従来の博物館活動を行いながら、いかに感染拡大を防止するかは当然考慮しなければならない重要な課題であった。開会後は社会活動、経済活動が制限される中、来場者をいかに集めるかという問題と、一方で展示室内のいわゆる3密（密閉、密集、密接）をいかに回避するかは、互いに相反する問題であることを痛感した。当館の今回のような県主催展覧会において、国立科学博物館のように来場者が殺到することはまずないと考えて、それほど重要視していなかったが、会期後半には時間帯によっては、かなり密になることが

あった。平常時において集客だけを考えれば当然にして大変ありがたいことだが、コロナ禍においては喜んでばかりはられない。そこへ展示解説を行えばさらに密となってしまう。その後、感染の報告等、何事も起こらなかったのがよかったが、感染予防のためには、入場者数をしっかり把握し展示室内の人数をコントロールする必要がある。会期後半の解説会は、来場者へ事情を説明し概要のみ展示室外で伝え、自由観覧、観覧後に展示室外で質問を受ける形へ変更した。

#### (5) 新しい展示の取り組み

今回の展示会の目玉の一つとして、当初より考えていたのが多数の大型岩石標本のハンズオン展示であった。またそのうちの5種類は、プロジェクションマッピングによって岩石の表面に岩石の特徴に合わせた顔を投影し、岩石自身が自己紹介し実際に触ってもらうような呼びかけをする展示（しゃべる石）である。



図2. ハンズオンの予定だったしゃべる石  
(第3章の久米島石のじゃがいも坊主)

また同様のハンズオン展示として、島の地質や地史と密接に関連する島々の立体地形模型も多数製作した。しかし、これらハンズオン展示は感染予防のため、展示のみでハンズオンを行うことができなかったのが非常に残念であった。それに代わって、大きな展示効果を発揮したのが、各種映像コンテンツであった。その一つが当初、岩石標本の自然界でのリアル感や臨場感を伝えたく制作したドロー

ンによる空撮映像である。また岩石の生い立ちや島々の地史を伝えるために地史の3DCG映像も制作した。



図3. 伊平屋島ヤヘー岩の空撮映像  
(キャプチャー画像)

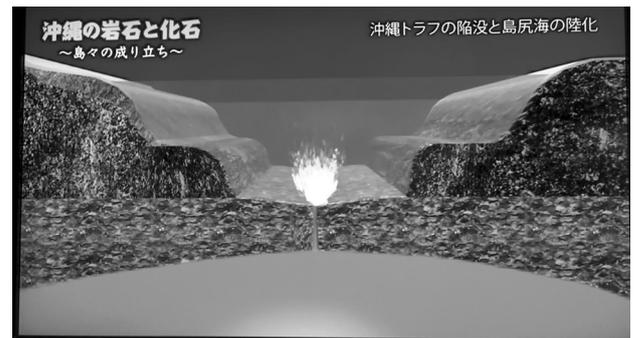


図4. 地史の3DCG映像  
(キャプチャー画像)

## 4. 展示の評価

### (1) 評価の観点と方法

本展示会の目標を一般の方、特に子どもたちや学生に岩石鉱物や沖縄の島々の地形地質の興味・関心を高めるきっかけ作りとすることを目標としたので、本稿での自己評価は一般の来場者を意識した評価を行う。よって評価の指標として、入場者数、年齢層、展示内容をどう感じたか、来場者の観覧前後の行動変化等についてアンケートの回答や来場者等の声とともに以下に記載し、それらを基準に展示内容とともに考察し自己評価を行う。

## (2) 入場者数の変化と内訳

表1. 入場者数

開催月	9月	10月	11月	合計	割合
有料	1,333	1,999	1,737	5,069	67%
無料	449	1,053	1,031	2,533	33%
総数	1,782	3,052	2,768	7,602	100%

総入場者数：7602人（会期60日）

1日平均：127人

無料入場者＝中学生以下＋招待券入場

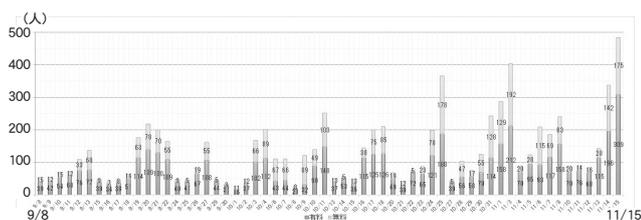


図5. 入場者数の推移

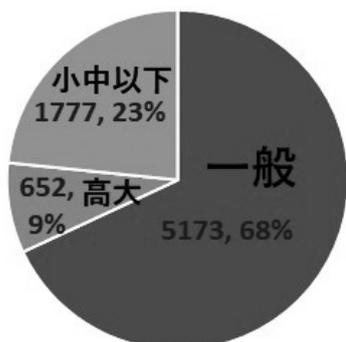


図6. 入場者の内訳

## (3) 入場者の声1（アンケートの結果）

回答者 203名（県内 196名、県外 7名）

### ① 展示に対する満足度

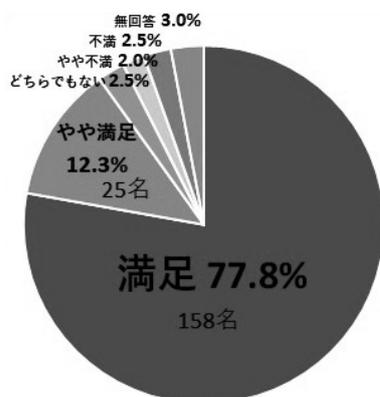


図7. 展示の満足度

## ② 自由記述・感想等（118名回答の抜粋）

### 肯定的意見・感想

- ・豊富な内容で見ごたえがあった。
- ・毎日歩いているこの島の土地の歴史がよくわかり知識がふえてよかった。
- ・岩石のロマンを感じ自然の営みに感謝する展覧会だと思う。空からの映像は引き込まれていく感覚になりウミカジを感じた。
- ・子供が石マニア、私が石碑好きなのでたまりません。ゲームに出てきた岩石等を見た子供が大喜びしていました。
- ・最古の石など本当によくここまで揃えられたなあと思い、感動しました。
- ・石獅子作りと展示解説とても充実した一日となりました。
- ・「岩石展」というネーミングとしゅう曲した岩石の見出しにつられて見に来ました。担当者の本気度が感じられました。
- ・岩石が身近に感じられた。岩石や鉱物ってたくさん種類があって詳しく色々書かれていておもしろかった！
- ・沖縄の自然の多様性と同一ように石にも多様性があることに驚かされました。
- ・手書きで石の説明をしていた展示がとてもよかった。一番心に残りました。
- ・動画を web で見れるようにしてほしい。
- ・岩石についていろんな角度から学べて大変有意義な時間を過ごせた。プロジェクションマッピングには少しビビりましたが（笑）とても面白かったです。
- ・岩石展にくる前は、きれいな鉱物だけが好きで、岩石についてきょうみがなかった。鉱物といっしょに岩石も見てイメージがとてもすばらしい物にかわった。石についての仕事をやりたいと思うようになった。また岩石展をやってほしい。
- ・キュレーターの方の石への思いがつまっていた深い内容でした。子供から大人まで楽しめる内容、興味深い。

### コロナ禍ならではの感想と意見

- ・2周したかったけどコロナで長時間いるのは、まずいかもと思いつめた。コロナが無ければ石に触

れる展示だったと聞いた。残念でしたが、見るだけでも面白かった。

- ・ソーシャルディスタンスをとるためイスにネコの写真をはっているのが面白い。
- ・ふれたり重さを体感できるとよかった（感染症対策と考えると難しいでしょうが）
- ・映像コンテンツが何点かあったが、どれもスペースがせまく、展示ケースとも近かったので、密になったり、見えにくかったりした。コロナの状況もあるので、いつもより気をつけてほしかった。

#### 展示に対する意見

- ・説明・案内がもっとあると深くみることができるかも。
- ・石の声や映像、難聴の私には聞き取りづらく残念に思いました。文章で表記されていたら読めるのになあと思いました。
- ・プロジェクターを使用した展示はすてきだけ人の影が写らない、せめて目に光が当たらない様位置を工夫できないか？
- ・量が多く会場キャパシティを少しオーバーしている印象。年齢や知識量に応じたマニア向けなどでブースを区切って展示していく方法もよかったのでは？もっと参考資料が理解しやすければ、より深く楽しめたのかと感じる。
- ・小さい子でも読めるように、もっと漢字にふりがなをつけてほしい。
- ・専門用語が多くてわかりづらいところがある。素人も楽しめる説明がほしい。
- ・総合的な理解が深まらない軸線とひろがり不明瞭
- ・情報量が多すぎ序盤から疲れた。重複するものを減らしわかりやすい説明があれば良いのと思う。
- ・総じてすべての説明が浅く雑に感じたので、章をいくつも分けて、もっとマニアックな内容にしてもよいと感じた。
- ・小学校3年生です。たのしめなかった。かんじもあるし、むずかしかった。
- ・プロジェクションマッピングは音声小さく隣の岩石と声が混じってしまい、うまく聞き取れない

ことがあった。

- ・岩石を顕微鏡で見られるのはとてもよいと思う。回転させてクロスニコルで色が変化する様子がみられるともっとよい。

#### (4) 入場者の声 2

##### もぎり・展示 交流員（監視員）より

- ・9/22 小学生の女の子 2 人組、1 時間以上熱心に見学し、最後に「写真もたくさん撮れて満足です」と嬉しそうに帰っていきました。
- ・10/13 高齢の夫婦「こんなにたくさん展示して、担当者にご苦労さまといたい、本当に何百種類の岩石があってすごい」とおっしゃっていました。大変満足されているようでした。
- ・実習生の説明文が手書きだが、一番わかりやすかったとお言葉いただいた。

#### (5) 入場者の声 3

##### 展示解説を聞いた高校生の声

- ・理解が深まったもの、さらに謎が深まったものなど、石はたくさん引き出しを持っていると感じた。石はとても身近であると実感した。
- ・一つ一つの岩石から生きていたようなパワーがキラキラと心に刺さってきた感じがして少し緊張感が走った。
- ・ただの石が、島の生い立ちや生活とつながっていることを知った。

#### (6) 入場者の声 4

##### 学芸員資格取得を目指す大学生の感想

- ・展示配置は抑揚が付いていて、見所満載、最後まで見飽きなかった。
- ・キャプションの専門性が中途半端に感じた。専門的にするか極限まで易しくするか。
- ・岩石には全く無関心だったが、そんな無関心さを吹き飛ばすほどに石に対する情熱を感じた。3 時間観覧した
- ・岩石について多方面から学ぶことができ、沖縄の自然をより知るきっかけになった。
- ・沖縄の自然に関する認識が覆された。特に離島の地質について初めて見る映像や標本が多く知識を得ると同時に疑問も生じ、文献を調べるきっかけ

になった。

- ・目を惹く生物に興味がいきがちだが、足下の石に目を向けることでフィールドをより楽しみ学ぶきっかけになると感じた。
- ・複数回行って充実した展示内容であったため飽きることがなかった。入口のしゃべる石を最初に見たときの衝撃は未だに忘れられない。説明の長さもよく文字だけよりも理解しやすい。
- ・しゃべる石が印象的だった。話の内容は意外と難しく子供が聴くにはかなりの集中力がいるのではと思った。
- ・普段様々な角度から岩石をまとまった量見ることができないので、貴重な経験をした。岩石の幅広さを感じることができた。
- ・ポスターについて デザインが記憶に残りやすい。キャッチコピーも非常に考えさせられるユニークなものだった。一目に必要な情報のみを伝えるつくりで、インパクトを与え興味を惹かせるものだった。
- ・子どもからご年配の方まで幅広い年齢層の様々な人が見に来ていると思った。
- ・子ども達が、きれいな宝石や大きな岩石のような目を惹く展示はもちろんしゃべる石の展示をしっかりと聞いているのが印象的で、子供が興味を持ちにくい分野の解説をしっかりと聞いている姿は、展示に関わっていない私でも感動した。
- ・解説文が岩石を人であるかのように扱い書かれている点が特に印象に残った。理解しづらい資料を幅広い世代により分かりやすく伝えようとする意図が伝わった。
- ・博物館は見て終わりではなく、そのものがある環境を知り、行って見て触れることが大切で、博物館を出た後にどうしてほしいか、次の学びにどう繋げていくのかも視野に入れ企画することも必要と感じた。
- ・企画に費やした時間、情熱が見ている側にも伝わる展示で楽しめた。
- ・しゃべる石は、岩石に興味なかった人や低年齢層へ岩石の性質を伝える役割はとても大きいと感じた。
- ・次第に展示に引き込まれるように感じた。視覚的に印象に残る展示が多く岩石に興味がない人でも

展示を見てみようと思わせる工夫が見られた。興味深いコラムや解説が各所にあり、岩石を並べただけではない飽きさせない努力を感じた。

- ・専門用語が少し多いと感じた。

#### (7) その他（来場者の感想や来場者から直接聞いた観覧後に想定される行動）

- ・これからは岩、石からその土地の歴史が見えると思う。フィールドにおけるものの見方や考え方が変わるきっかけとなった。
- ・石垣や地層が気になり見ると思う。
- ・何度も岩石展に足を運んだ。
- ・全ての関連催事（体験教室、ワークショップ、野外観察会等）に参加したい。
- ・友達に石の話をした
- ・がんばりノート（宿題）にまとめた。
- ・毎日、石の本を見ている。
- ・次のジオツアーにも参加したい。
- ・常設展示へも行く。島に石を見に行く
- ・将来、石に関わる仕事をしたい  
岩石展のために年間パスポートを購入

#### (8) マスコミの論評

##### ①ラジオ番組中のコメント

石に対する思いが変わり、石に御礼をいいたくなった。

##### ②沖縄タイムス10/9（美術月評9月）

目に見えないウイルスに怯える日々が続くなか、岩石の圧倒的な物質性と歴史を前にたじろいでしまった。沖縄における島の成り立ちを「岩石」から読み解く同展の気迫は、今のわたしたちに励ましの言葉を越えた圧倒的な物質性の現前を以って勇気付けてくれるだろう。

#### (9) 館内ショップより

- ・図録の売れ行きが早い
- ・図録再販希望の声多数→増刷対応した。
- ・オリジナルグッズ（岩石コースター等）売れ行き好調、追加発注し販売した。
- ・展示室映像のDVD 販売希望の声あり

## (10) WEB広告のクリック率

WEB閲覧者の関心の指標として、Facebook・Instagram・YouTube・Twitter上のWEB広告の表示回数:698,287回、クリック率:0.56%、クリック数:3,945回と、各WEB広告のクリック率を以下に示す。カッコ内の値は、前回広告配信をしたレオ・レオー二展の値である。

Facebook	1.29% (1.28%)
Instagram	0.45% (0.93%)
Twitter	0.19% (0.18%)
YouTube	0.16% (0.14%)

Instagramの値が大きく低下したが、他メニューは若干の上昇となった。

## 5. 考察と自己評価

### (1) 入場者数の変化

60日間の1日あたりの平均入場者は127人、月別では9月89人、10月113人、11月213人であった。会期末に近くなる程、増加傾向となるのは、通常と同様であるが、会期前半は平時より大きく下回り、後半は逆に大きく伸びる傾向にあった。その理由は、開会後に多数のマスコミによって取り上げられたことや、会期中から各章の展示解説をYouTubeで動画配信を開始したことによる宣伝効果が大きいと推測される。またコロナ第2波の収束と、コロナが長期化して社会的にwithコロナの流れの時期と重なったことにもよるであろう。最終的に入場者数7602人は、平常時目標の7900人にはわずかに達しなかったが、コロナ禍による下方修正目標(6057人)を大きく超えた。

### (2) 入場者の内訳と展示の目標

未就学児を含む大学生以下の学生の割合は、入場者7602人の32% (小中学生以下23%、高校大学生9%)であった。比較データとして直近の当館自然史の展覧会である特別展「縄文と沖縄」(平成30年度開催:入場者7737人、小中学生以下10%、高校大学生5%)の入場者内訳を示す(図8)。

岩石展では、子どもや学生の割合が縄文展の約2倍を占めた。展示内容や対象が異なるので単純比較はできないが、主な対象を子どもや学生に絞り、中

学生以下を無料としたことによる効果があったと推測できる。来場者の中にはYouTubeの動画を見て来館したという方がかなりの数いらっしゃった。県外からの来場者の割合は、具体的な数値を示すことはできないが、コロナ禍のため大きく減少したことが推測される。

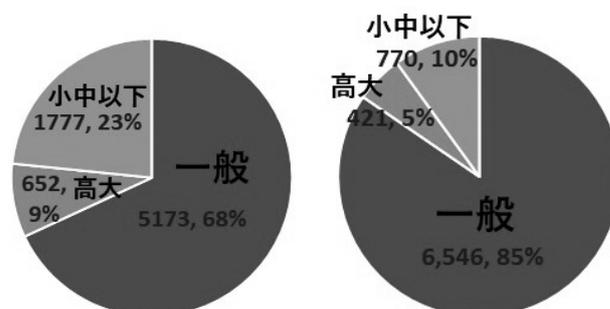


図8. 来場者の内訳の比較  
(左: 岩石展、右: 縄文展)

### (3) 展示の制約と新しい取り組み

展示ケース外の展示資料は、全てハンズオンとする予定だった。しかし、コロナ禍による感染拡大対策のためハンズオンの展示が一切行えなかった。歴史分野や美術工芸分野の現資料と異なり、本来なら岩石標本の多くがハンズオン可能であり、来場者にとっても展示の大きな魅力になると考える。しかし、それが不可となったことは、展示の魅力を大きく低下させた。来場者からは石に触ることが出来なかったことについて、残念という声が多数寄せられた。

ハンズオン展示の制約を補ったが、多数の大型標本と様々な多数の岩石鉱物標本、岩石の野外での臨場感や成り立ちを伝えるために作成した映像だった。さらに沖縄の岩石の特徴をやさしく伝えるために制作した岩石のプロジェクションマッピングは、他館に前列もなく類を見ない斬新な展示であり、展示の注目度や満足度アップに貢献しハンズオン資料の代替となったと推測される。多くの来場者からも大変好評であった。

### (4) 展示内容と来場者の声

前述のとおり来場者のおよそ9割が展示内容に満足と答えており、自由記述の多くも肯定的な意見であった。本稿ではスペースの関係で全てを紹介でき

なかったが、たくさん子ども達からも多くの嬉しい感想をいただいた。

一方、展示内容や説明、案内、音量等の不足や不満等、否定的な意見も散見された。これらの意見については、実際の展示と来場者が求める展示が一致しなかったといえる。全力で展示を作り上げたつもりではあるが、このような意見にも対応し全てのお客様に満足していただく難しさを痛感した。対応策として、展示内容を深読みできるようなキャプションや展示エリアを作るなどの工夫が必要だったかもしれない。また説明不足という意見については、情報量を絞ったことによる。要望があったもので修正可能な点は可能な限り、追加修正を行なった。

子ども達や学生を取り込みたいという目標を挙げ、多くの子供たちからうれしい感想をいただいた一方で、逆に難しく楽しめなかったという意見もあった。難しい漢字にはもっとルビをふるなどの配慮も必要であった。

#### (5) まとめ 展示の目的は達成できたか。

来場者数はほぼ目標を達成した。来場者の9割近くが展示に対して満足と答えている。入場者の内訳のうち、小中学生以下や学生が約3割を占めたこと、さらに子ども達からより多くの感想をいただけたことは、来場者が求める展示であったといえる。以上より、展示の目的は達成できたと判断し自己評価としたい。

#### 6. 謝辞とおわりに

最後になりますが、コロナ禍の中、開催させていただけたこと、そしてご観覧いただきましたたくさんの皆様、特別展岩石と関連催事の開催にあたり、多大なご協力を賜りました関係各位、岩石標本の収集・調査にご協力下さった県内離島の皆様、岩石展の開催を裏側から支えていただきました沖縄美ら島財団の皆さまをはじめとする全ての職員に感謝いたします。

#### 7. 参考文献・引用文献

新型コロナウイルス感染症に係る沖縄県イベント等  
実施ガイドライン  
沖縄県立博物館・美術館新型コロナウイルス感染拡

大予防ガイドライン  
博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン.公益財団法人日本博物館協会  
公益財団法人日本博物館協会 (2020) 博物館研究 Vol.55 No.11 通巻 630 号  
全国科学博物館協議会 (2020) 全科協ニュース vol.50. No.4  
全国科学博物館協議会 (2020) 全科協ニュース vol.50.No.5  
全国科学博物館協議会 (2021) 全科協ニュース vol.51.No.1